

令和5年度いちごナミハダニの薬剤感受性検定結果

長崎県病害虫防除所

1. 試験目的

いちごの重要害虫であるナミハダニについては、近年多発傾向にある。本虫は一部の薬剤に対する感受性が低下しており、防除対策を立てる上ではその動向に注意する必要がある。

そこで、各種薬剤に対する感受性検定を行い、薬剤抵抗性発達防止への取り組みの参考とする。

2. 検定概要

1) 採集地区および実施日等

市町名	地区	採集日	接種日	処理日	判定日
大村市	松原 地床	4月17日	5月9日	5月11日	5月18日
諫早市	飯盛 ベンチ	4月17日	5月15日	5月17日	5月24日
雲仙市	瑞穂 ベンチ	4月19日	5月23日	5月25日	6月1日
雲仙市	国見 ベンチ	4月19日	5月23日	5月25日	6月1日

2) 供試薬剤および供試希釈倍数

薬剤名	有効薬剤	成分量 (%)	I R A C	登録希 釈倍数	供試希釈倍数	
					常用濃度	3倍希釈濃度
カネマイトフロアブル	アセキノシル	15	20B	1000~1500	1000	3000
モベントフロアブル	スピロテトラマト	22.4	23	500※	500	1500
アグリメック	アバメクチン安息香酸	1.8	6	500~1000	500	1500
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	10	30	2000	2000	6000
ダニオーテフロアブル	アシノナピル	20	33	2000	2000	6000

※農薬使用基準における灌注処理希釈倍数

3) 検定方法 リーフディッピング法

インゲン苗の初生葉 2 × 4 cm の葉片を切り出し、雌成虫を 10 ～ 15 頭接種し、2 日間産卵させた後、雌成虫を取り除き、卵数を計数した。直ちに葉片ごと卵を所定濃度の薬液（展着剤添加）に約 10 秒間浸漬した。薬剤処理 7 日後に生存虫数と死亡虫数（ふ化後死亡幼虫および未ふ化卵）を調査し、次式により補正死虫率を算出した。

$$\text{補正死虫率} = \{ (\text{無処理区の生存率} - \text{処理区の生存率}) / \text{無処理区の生存率} \} \times 100$$

3. 結果

1) カネマイトフロアブル

大村市（松原）、諫早市（飯盛）の常用濃度では補正死虫率は 90 % 以上であったが、他地区では 40 % 以下であった。3 倍希釈濃度ではすべての地区で補正死虫率は低かった。

2) モベントフロアブル

すべての地区で補正死虫率は 90 % 以下で、とくに雲仙市（瑞穂）（国見）の 2 地区では常用濃度、3 倍希釈濃度ともに補正死虫率は 40 % 以下であった。

3) アグリメック

諫早市（飯盛）の常用濃度、3 倍希釈濃度と雲仙市（国見）の 3 倍希釈濃度では補正死虫率が 80 % 以下であったが、他地区では常用濃度、3 倍希釈濃度とも補正死虫率は 90 % 以上で高かった。

4) グレーシア乳剤

大村市（松原）の常用濃度と3倍希釈濃度および諫早市（飯盛）と雲仙市（国見）の常用濃度では補正死虫率が90%以上であった。雲仙市（瑞穂）の常用濃度と3倍希釈濃度では30%以下で低かった。

諫早市（飯盛）、雲仙市（国見）の3倍希釈濃度では85%以下であった。

5) ダニオーテフロアブル

すべての地区で常用濃度、3倍希釈濃度とも補正死虫率は高かった。

表 令和5年度いちごナミハダニ薬剤感受性検定結果（補正死虫率） (%)

		カネマイト フロアブル	モベント フロアブル	アグリメック	グレーシア 乳剤	ダニオーテ フロアブル
大村市 （松原）	常用	92.4	89.1	99.7	100	100
	3倍	72.5	78.0	96.3	98.4	100
諫早市 （飯盛）	常用	98.8	85.7	76.4	99.6	100
	3倍	87.2	79.9	37.6	84.1	100
雲仙市 （瑞穂）	常用	26.6	24.9	99.0	28.2	100
	3倍	13.1	14.3	93.9	23.6	100
雲仙市 （国見）	常用	33.0	36.0	99.4	93.2	100
	3倍	47.7	35.7	49.7	83.4	100

補正死虫率90%以下はセルを塗りつぶした。

表中の数値はハウス単位で採取したハダニの結果であり、各地域全体の感受性を反映したものではない。